

経済百葉箱 《番外編・研修レポート》 11年度公表について

2011年7月8日

公益社団法人 日本経済研究センター 研究本部長 猿山 純夫

日本経済研究センターは、経済予測、政策研究、セミナーなどを通じ、さまざまな情報を社会に発信・提供しています。と同時に、中核事業として、次代の経営幹部やエコノミストの養成を目的に、企業（団体）の若手・中堅社員（職員）を1年間ないし2年間、当センターに派遣いただき、「委託研修コース」を設け、運営に当たっています。当センター設立以来46期を数える伝統ある本研修の「卒業生」は既に1,300名を超し、経済界で広く活躍しています。

本コースに派遣いただいた研修生（当センター呼称では研究生）は、4～6月の期間、経済分析や経済学を使って課題を解決するために必要な講義（基礎研修）を集中的に受講します。日本を代表する経済学者ら、経験・識見に優れた講師によるマクロ・ミクロの経済学にはじまる講義は、社会人向けとしては他に例のない、ユニークな研修プログラムです。（その後、7月からは、希望に応じて経済予測や各種の分析作業に携わる応用研修を開始しています）

09年度から本研修の一部を担当する竹内淳一郎主任研究員（当センター短期予測班主査）の発案で、研修期間中に『経済百葉箱』（当センター経済予測班が執筆するレポート）の、《番外編・研修レポート》の作成を課すこととしました。第1に、座学に偏った研修にアクセントやメリハリをつけること、第2に、論理構成力を磨くこと、第3に、データオリエンテッドなリサーチを体験し実務研修へのスムーズな導入に繋げること、最後に、研修生同士の議論を通じ交流を深めること、を目的としています。

11年度は各社・団体から新たに派遣された24名がレポート作成に取り組みましたが、今回、「長寿大国と医療費抑制の両立を：「予防医療」の推進に向けて」を皮切りに6つのレポートを公表いたします。

皆様の眼からみると、内容自体、詰め切れていないと感じられるかもしれませんが。ただ、上記の趣旨からすれば、時間を掛け内容を精緻化するより、荒削りでも世の中の議論に一石を投じる意味で、公表することに意義があると考えています。その際、極力幅広い読者層を対象に、平易かつ簡潔なかたちで、記述するよう指導した積もりです。

本レポートが皆様に日経センターの研修活動をより知っていただくきっかけになれば幸いです。内容にご意見等ありましたら、以下の「経済百葉箱・研修レポート」専用メールアドレスにお寄せ下さい。[hyakuyou-kensyu \[at mark\] jcer.or.jp](mailto:hyakuyou-kensyu@jcer.or.jp)（お手数ですが【at mark】箇所を@に変えてお送りください）